

# 一般受託製造産業欄

## 世界初14色のリキッドアイライナー上市

### アイメイクブーム追い風に 差別化商品提案に自信

リキッドアイライナーのOEMを行うケミコスクリエーションズ(東京都台東区)の服部勝高社長は6月11日(木)、東京・新御徒町の本社オフィスにて本紙のインタビュに応じ、会社設立からの歩みと経営特色に加え、最新の提案材料や取り組み、今後の成長戦略など縦横に語った。聞き手は小林編集企画部長。

市場性から、国内より先に海外への提案活動を行ってきた。海外ではOEM会社にも提案力が求められることが当たり前のため、当社では「売れる商品」の企画提案力の強化にいち早く取り組んできた。しかし、斬新なアイデアで企画ができて、それが技術的に実現不可能では意味がない。そのため、アイデアを迅速に商品化できる技術力や開発力を高め続けてきた。



代表取締役社長 服部勝高氏

# 中身・容器の一貫製造が強み

## これからのケミコスクリエーションズ

### 目や肌への安全性徹底

「貴社の業務内容および受託製造品目には、顔料を使用、目や肌に対する安全性には特にこだわりを持っていて。また、バルク(中身)の処方開発・充填だけでなく容器の研究開発および製造も一貫して行っていることが特徴で、そのことが高品質で機能性に優れたアイライナーの提供を可能にしている」

「会社設立以来の主な歩みと成長転機は、当社が1996年の創業だが、元々は30年ほど前、私が興工業に在籍していた時にペン型リキッドアイライナーを初めて世に出したことがきっかけである。これがアメリカの有名ブランドに採用され、当時150万本の大ヒット商品となった。その後、技術的な問題点もあり『谷』も経験したが研究を重ね、現在の筆ペン型リキッドアイライナーの開発に成功した。特にここ4〜5年ほど『目チカラ』が脚光を浴び、世界的なアイメイクブームでアイライナーは注目のアイテムとなった。おかげさまで既存、新規顧客ともに順調に伸びており、現在、世界の有名ブランドをはじめ国内外数多くの化粧品メーカーにお取引いただいている」

「その成長過程から生み出した経営特色は、当社がアイライナーの

### 女性2千サティス製薬 分



サティス製薬(埼玉県吉川市、山崎智士社長)は6月19日(金)、化粧品通販市場のOEM提供先に対する販売支援サティスの一環

## 埼玉でハラル化粧品研修会

### パネルディスカッション カシオンなど

埼玉県と県が支援する埼玉県化粧品産業国際競争力強化委員会は6月15日(月)、さいたま市浦和区のパネルディスカッション「ハラル化粧品市場参入の可能性をテーマに、杉林堅次・城西大学副学長(埼玉県化粧品産業国際競争力強化委員会委員)のコーディネートのもと、前述の石田尚志社長、佐久間朋宏代表理事、川尻真己・オリザ油化営業部課長兼東京営業所長、謝村錦芳・埼玉県保健医療部業務課長の4名のパネリストが活発な意見交換を行い、会場の参加者からも多くの質問が寄せられた。

「ハラル認証は一つのブランドで、ムスリムの消費者はそれが付いているだけで安心して買えるメリットがある。ただ、認証取得のハードルは高く、認証を得られない場合でも、情報開示などでメイドイン・ジャパンとハラルをいかに組み合わせるかが今後の課題」(石田社長)。

石田香粧は埼玉県が支援する「ハラル化粧品原材料

当日は県内企業を中心に化粧品メーカー、原料サプライヤー、商社、ハラル関連団体などの関係者が定員20名の会場に集い、ハラル・ジャパン協会代表理事の佐久間朋宏氏による「ムスリム向け化粧品の今後の展望」と題した講演や、埼玉県の取組みが紹介された。

「ハラル化粧品市場参入の可能性をテーマに、杉林堅次・城西大学副学長(埼玉県化粧品産業国際競争力強化委員会委員)のコーディネートのもと、前述の石田尚志社長、佐久間朋宏代表理事、川尻真己・オリザ油化営業部課長兼東京営業所長、謝村錦芳・埼玉県保健医療部業務課長の4名のパネリストが活発な意見交換を行い、会場の参加者からも多くの質問が寄せられた。

「ハラル認証は一つのブランドで、ムスリムの消費者はそれが付いているだけで安心して買えるメリットがある。ただ、認証取得のハードルは高く、認証を得られない場合でも、情報開示などでメイドイン・ジャパンとハラルをいかに組み合わせるかが今後の課題」(石田社長)。

石田香粧は埼玉県が支援する「ハラル化粧品原材料



埼玉県と県が支援する埼玉県化粧品産業国際競争力強化委員会は6月15日(月)、さいたま市浦和区